



**オーディオも走りも
コンペティションスペック!**

シート&ステアリング、ハーネスは昔から愛用していたスパルコとシンプソンを最新モデルでアップデート。メーターもレーシングカー御用達のスタックを組み込むなど、これまで思い描いていた完成形に必須のアイテムを全力投入。オートパワー製のケースは右ハンドル用に特注しながら、ラゲッジにはオーディオをインストール。アメリカ的ストリートチューンドのお手本ともいえる仕上がりに。



↑メンバーレースやアームは、サーキット走行にも対応するべく軽量のピレット製をセット。ダンパーはテインのレース用別タイプをセットして、若干サーキットを意識したセッティングを施す。ちなみにホイールは、現在は仮合わせでAVID1 AV16をセットしているが、今後はパラマンディ別注のオリジナルデザインのホイールに交換予定とのこと!

**外装シンプル
中身は濃〜い究極USDM**



**DC2
Integra**
SPORT LIFE

こだわりの後期US仕様は現行プリウスのサーモテクトライムグリーンでオールペン。特徴的な丸目4灯はすべてペロフのLEDに差し替えるなど、最上級のパーツのみで組み上げられている。残る課題はボンネットの選択だとか。

「愛車」という言葉があるように、人にとってクルマは愛情を注ぐ対象のひとつ。もちろんその愛の表現方法はそれぞれで、ノーマル至上主義からカスタムで理想のカタチを追い求める人など多種多様。そんなクルマ愛に溺れているのが、サウンドコネクション(以下サンコネ)のホス中村氏だ。サンコネといえは様々な最新カスタムを世に送り出しているカスタム界の老舗。常に業界のトップを走り続ける理由は、移り変わる時代の流れを瞬時に察知していること。そんなサンコネ中村氏が1台のクルマに偏愛しているとは誰が想像できるだろう。

「もともとDC2は大好きで、これまでも5台乗り継いでいるんですよ。でも、どれも中途半端な仕上げのまま手放している。本当の理想を完成させた事は……」と、遠く目で語る中村氏。そんなこんなで、これまでの知識と経験、その全身全霊の愛を叩き込んで、遂に理想のインテをメイクしちゃいました!

まずは心血を注いだエンジン回りを紹介。ノーマルのB型から高年式かつ高出力のK20への換装はもちろん、吸排気や燃料系をアップデート。もちろん国産チューニングとの違いを明確にするため、使用するアイテムはすべてUSブランドをチョイス。シェイブドベイやワイヤータックを駆使することで、シヨーカーとしても十分に通用する仕上げとし、加えてインテリアもオートパワー製特注ケーシングやオーディオ、フルアルカンターラ張りやシックスにまとめる。定番をキツチリと押さえながら、走りも見えた目も最旬メイクが施されているというわけだ。

ストリートにこだわった作りながら、実は中村氏がもともと富士スピードウェイを走らせていたというこのDC2。まだまだやりたい事は山ほどあるけれど、まずはこの姿で富士を走るのだ!

- ベースカー / インテグラ '96年型
- 協力 / サウンドコネクション ☎046-263-5945
www.soundconnection.co.jp/
アートボディ ☎046-262-2440
- PHOTO / 編集部 TEXT / 渡辺大輔

神業ディテールリングのK20換装



程度のイイDC5から移植したK20エンジンは、AEMのEKシビック用インテークや、skunk2のスロットル&サージをはじめ、サンコネが取り扱う本場USチューニングパーツを大量投入しているぞ。パフォーマンスはもちろん、ショーカー並のスタイリングにもこだわる本気な作り。さらに実用にはパワステは欠かせないと、ForgeMotorのエボ9用パワステタンクをカスタムフィットで装着。



←日本流のエンジンスワップとは違い、ディテールリングまでこだわり抜いている。エンジンをスッキリとさせながら、フリクションを低減させる電動ウォーターポンプ化をはじめ、ワイヤータックも専用のRyWire製のコンバージョンハーネスを使用。ワンオフも考えたというパワステポンプブラケットは、奇跡的に新製品が出たKモーター製をチョイス。

